

議事録

件 名：令和5年度第1回さぬき市地域公共交通会議

日 時：令和5年7月18日（火）9時30分～11時30分

場 所：さぬき市役所3階301・302会議室

出席者：【委員】宮崎会長、尾崎委員（会長職務代理者）、久保委員（代理）、六車委員、井上委員、小倉委員、白山委員、元山委員、山本委員、淵田（代理）委員、溝渕委員、芦谷委員、上野委員、鹿児島委員、木村委員、佐々木委員、末次委員、鈴木委員、十川（代理）委員、藤平委員、藤本委員、間嶋委員、津田委員

【市】都市整備課 新納課長、津村課長補佐、脇谷主査、大山主事

傍聴者：0人

配布資料：資料1 【さぬき市地域公共交通計画】各種事業の進捗状況報告

資料2 【さぬき市地域公共交通計画】コミュニティバス方向性と実証実験

別紙 さぬき市地域公共交通会議委員名簿、コミュニティバスの状況、路線図、前回議事録、活発でよい議論ができるために

さぬき市地域公共交通計画、コミュニティバスブック（継続委員には配布済み）

【次第及び概要】

1 開会

2 市長挨拶

3 委員紹介

4 議事

(1) 会長の選任について

(2) さぬき市地域公共交通計画に基づくこれまでの取組等について

(3) 令和5年度の主な取組について

(4) 今後のスケジュールについて

課 長：皆さま、本日はご多忙にもかかわらず、ご出席いただきありがとうございます。開会に先立ちまして、会議の公開について委員の皆さまのご了解をいただきたいと思います。附属機関等の委員の構成及び会議の公開に関する指針にもとづき、本会議を公開としてよろしいでしょうか？

<異議なし>

それでは傍聴希望者が来られましたら随時、入室いただきます。

それではあらためまして、皆さま、おはようございます。ただいまから令和5年度第1回さぬき市地域公共交通会議を開会いたします。会長が選任されますまで、司会進行を務めさせていただきます都市整備課・課長の新納でございます。よろしくお願い申し上げます。

それでは開会に当たりまして、市長の大山茂樹よりご挨拶いたします。

市 長：挨拶

課 長：委員の皆さまにおかれましては、本会が初顔合わせとなります。時間の都合上、私がお名前を読み上げて、紹介させていただきます。さぬき市地域公共交通会議議員名簿をご覧ください。(名簿順に名前読み上げ、事務局員、バイタルリード紹介) また、大山市長につきましては、別の公務のためここで退席させていただきます。

(1) 会長の選任について

課 長：それでは、議事に入りたいと思います。議題1「会長の選任について」でございます。さぬき市地域公共交通会議設置綱第4条に会長は委員の互選により定めるとあります。皆さまからの推薦はございますでしょうか。

<推薦なし>

ないようですので、事務局案をお伝えさせていただきますがよろしいでしょうか。

<異議なし>

学識経験者として就任いただいております、香川高等専門学校教授の宮崎耕輔委員にお願いしたいと思いますが、皆さまいかがでしょうか。

<異議なし>

それでは、宮崎委員に会長をお願いしたいと思います。宮崎委員に会長席への移動をお願いします。

それでは宮崎会長にご挨拶いただき、その後の進行をお願いします。

会 長：挨拶

佐々木委員：市長の挨拶の中で、都市計画そのものが変わる、公共交通計画会議で行っている最初の諮問内容も変わるのでしょうか。

事務局：基本的には変わらないです。市長から白ナンバーの互助輸送をイメージされる発言がありました。公共交通計画の中で例えば事業12のコミュニティ交通の導入とかありますが、まずは緑ナンバーでできる限りのことはやる。その次に皆さまのご議論の中で整えば、それを導入していくといった流れになります。今回の地域公共交通計画を踏んで、取組を進めていくといったイメージを考えていただければと思います。これを逸脱したり、改定したりは基本的に考えておりません。ただ、一部時代に応じて見直しをする場合はありますが、現時点では地域公共交通計画に沿った取組を継続するという方針です。

会長：よろしいでしょうか。基本は地域公共交通計画に記載されている内容を、現在の状況にあった形で進めていくといったスタンスだと思います。

(事前配布資料、活発でよい議論ができるために ②・③・④の説明。)

最終的にはさぬき市の行政の費用・財政負担とか入ってくると、さぬき市議会議員の採決となってきますので、我々はこのメンバーでできることを一つ一つやっていく、そのような立場でこの会議にご参加いただき、お力添えをいただければと思います。

議題2に入ります前に、御承認いただきたいことがあります。地域公共交通会議の設置要綱第4条第3項に、会長に事故がある場合には、あらかじめ会長が指名する者がその職務を代理する。とございまして、尾崎委員に私の職務代理をお願いしたいのですが皆さまよろしいでしょうか。

<異議なし>

会長：ありがとうございます。尾崎委員、よろしく願いいたします。

本日の会議についてですが、11時30分までに終了したいと考えておりますので、ご協力をお願いします。

(2) さぬき市地域公共交通計画に基づくこれまでの取組等について

会長：それでは、議題2「さぬき市地域公共交通計画に基づくこれまでの取組等について」をお願いしたいと思います。事務局は、これまでの取組を説明をお願いします。

事務局：(説明) 要綱、資料1、計画書 に基づき説明します。

- ① 地域公共交通計画（振り返り）
- ② 地域公共交通計画に基づき、各種取組を行っていることの説明
- ③ 評価指標の確認

会長：ありがとうございました。これまでのおさらいという形でご報告いただきましたが、何か御質問などありましたらお願いします。

<質問なし>

会 長：もし今後、御質問等ございましたら事務局の方にお聞きください。

(3) 令和5年度の主な取組みについて

会 長：続いて、議題3「令和5年度の主な取組みについて」事務局より説明をお願いします。

事 務 局：(説明) 資料2、路線図、参考資料、さぬき市地域公共交通計画に基づき説明します。

- ① 収支、文理大学等移転の影響、高齢者が進む中での市民ニーズ
- ② 実験運行に向けた整理データの説明
- ③ 実験運行案の説明

会 長：ご説明ありがとうございました。ただ今の説明に関し、何か御意見や質問はございますか。

六車委員：タクシー会社として、実証実験に参加する立場であるのですが、少し不安な面が2、3ありますのでお聞きしたいと思います。予約配車システムですが、どれぐらいの範囲のピックアップで、どれぐらいの時間帯にするのか、運転手さんたちが不安に感じる場所であると思います。端から端まで15分とおっしゃいますが、すべて把握して予約を取ることができるのでしょうか。実証実験は3月までという事でございますが、何かの事情によっては3月以降も続けるとか、具体的な数字があるのでしょうか。その2点をお聞きしたいと思います。

事 務 局：ピックアップの範囲については、どこまでいけるのかと考えているところでございます。今考えているのが、東は大笹辺りまで、志度、上が白方、国道11号線位の範囲で考えています。A1デマンドで、1時、2時、3時、4時でお客様のご要望があれば入れていくと。そこにはルートが全部出てきますので、具体的に走るのは運転手さんの腕手をお願いしたいところですけど、システム上無理はないような運行をお願いするようになります。期間ですけれども12月位からできればスタートしたいと考えていますが、皆さま方の反応を大きなポイントにしたいと思っておりますので、3月でピシッと切ってしまうというよりは、もう少し長く実証するという可能性も勿論ありますが、無理のない範囲で、ドライバーさんの意見も聞きながら詰めていきたいと考えております。

会 長：他にございますか。私からですが、デマンドの運行の資料2の12利用状況について、今回のデマンド運行に利用するようになるところの、一番低いところの志度・鴨庄・興津線7便の平均利用者数が0.8であると。大体の感覚で見ると0.8だと一人乗っている可能性が高く、乗らない日が少ない感じで、これを止めてデマン

ドとかにすると、供給が対応できないのではないかと思ったりします。ほぼ毎日運行している可能性があるような気がするのですが、1を超えていることが多く、それなりの利用があるのではないかと。これを止めてデマンドに切替えることによって、本当に供給がまかなえるのか？という心配があります。デマンド運行することによって、一般のタクシー、普通のタクシーが使えない。私が住んでいる辺りでもタクシーを呼ぼうとしたら、貸切運行しているので配車できませんとのことでした。その時間はデマンド運行しているということで、一般のタクシーが配車できないということでした。そんな本末転倒なことが起こりうるので、その辺のところはどうなるのか気になるところであります。定路線型のコミバスを保管する形で、タクシーとコミバスの間を保管するようなものを入れようとしているのか、それともタクシーの利便性を上げようとしているのか、地域の特性として考えられそうな雰囲気かとデータを見て思ったりしました。需要の見込みというか、その辺の対応がどの程度までの考えなのか、取敢えずやってみても良いという気はするのですが、気に掛かるところではあります。

事務局：志度・鴨庄・興津線と、志度・鴨部・小田線とかでも、割と乗っているのではないのかという話もあります。私も乗っているのではないかと思うのですが、利用者さんからすれば、この時間の運行が無駄だというような意見もあるので、実際デマンドで実証実験をしようと思っています。定時定路で拾えていない方々がいるというのも実際のところではありますので、新しいエリアを広げるといような考え方をしているところです。それと、記載ミスで申し訳ありませんが、志度・鴨庄・興津線の8便上り14:10（誤で7便となっている）0.8人乗っているとなっていますが、こちらは徳島文理大学の学生さんがたくさん乗る便になっています。文理さんがたくさん乗る便については、ジャンボタクシーもう一台で走りますので、基本的には志度・鴨庄・興津線で数字が盛上っているところは大体文理さんであると思っていただくのが一般的な私たちの見方にしておりまして、そこを除けた一般市民の方々にどのくらいの拾いができるのかということとを今回実験したいと思っております。それと、今回の実証実験に使う車両はタクシーの事業所さんが現在コミュニティバスで走ってくださっている車両のみで行いますので、一般ユーザーさんへのご迷惑にはならないかと。今ある資源で、最大限の工夫をしてみたいと思うのが、今回の実証実験となっております。

会長：分かりました。否定するわけではないのですが、その辺り気を付けて動かし出した時に取りこぼしが出るかもしれないので、対応も考えておく方が良いと思います。恐らく14、5年前から岡山県の玉野市でやっております。デマンドタクシーを運行していて市のバスと、シータク（デマンドタクシーのこと）があって、シータクがごみステーションを中心にミーティングポイント（集合場所）として乗り場を設けていて、ホームページでヒットすると思うのですが、地図に番号が入っていて、予約する時に電話で、今はどのような形になっているか変わったかかもしれませんが、番号で予約するので、沢山地域を200か所くらい回って猛反発があったらしいのですが、そこは丁寧に説明をしながら対応をした、といった経緯もあったようですので、今回はエリアが小さいですけれどもきめ細かく回ってみて、見ていった方が良いかなと思います。

会長：皆さま方、何かございませんか。

鈴木委員：ご説明ありがとうございました。先ほど宮崎会長もご指摘していた件ですが、このデマンドタクシーで達成すべき目標みたいなものが少し分かりにくかったのですが、定時定路線の利用者について乗っていないのでその無駄な部分を効率化したいというお話をされていましたが、便辺り何人ぐらい乗るように運行すると、実証実験としては良かったとなるのか。デマンドタクシーか定時定路線のものか、最終的にどちらが良いのか判断することになると思うのですが、評価の枠組みとか評価項目の検討はこれからやるところに書いてあると思うのですが、今の段階での指標や目標値があれば教えていただきたいのですが。

事務局：実は、現時点での具体的な評価指標、目標の設定というのは決めてはいたところですが、ただ、変えてみてすごく乗りが悪くなるということは想定していないので、現在の午後便で乗っている方々の月乗りの利用人数12月～3月のそれよりも多くするというのが、一つ考え方としてあるのかなと思っています。ただ、事業所さんにとっても初めての大きな掛かりな取組みになりますので、余り事業所さんが疲弊するような形で数値を上げていくつもりもありませんので、今後、事業所さんと市民の皆さんと色々と話していく中で今回の実証実験での目標はここにしようというような決め方をしていこうかなと考えております。

鈴木委員：おっしゃる通り、課題に大きな目標を立てるのが難しい気がしまして。デマンドタクシーは大体予約の仕方が難しく、特に利用者の方は高齢の方とか多かたりするので、それだけで公共交通離れを起こしてしまっただけで乗らなくなってしまうと考えられる気がして、今回12月～3月まで実証実験期間の中で、今の定時定路線の利用人数まで持っていくことも、結構ハードルが高いような気もしていて、会長がおっしゃられていたような、まずはピックアップと目的地にどこに乗る場所と降りる場所があるのか、という事を周知するというのは、数が多くなればなるほど難しく、それを電話で何番から何番まで言えるようにする周知も、結構大変な気がするので、予約の方法も含めかなり丁寧に周知しないと、目標達成は難しいのかなというのが感想です。

事務局：我々もそこが一番の課題観でして、広報誌ではなくて、一軒一軒ポストイングしていくとか、後は座談会のような形で周知して取組んでいっても、まだ足りないくらいかもしれませんけどやりたいなと。ただその時には、地域で回られている方々、民生委員さん、いきいきネットさん、婦人会さん、社協さんというところの協力がないと絶対に難しいと思っておりますので、どうでしょうかというところでございます。

会長：ありがとうございます。鈴木先生の適切なご指摘がございました。終始難しいところもあると思うのですが、地道にやっていけばよいかと思うところでございます。何をもちて成功事例、失敗事例とするのかは難しいところでございますが、多分言おうとしているのは、現在のコミュニティバスで外出できなかった人が拾えて、外出できている人も不便なく利用できることを一つの成果として見るところであるかと個人的には思いますが、現在コミュニティバスを使っている人が、外出が難しくなったとかそうなるとう頭痛いなと思ってしまう。他に何かございますでしょうか。

尾崎委員：前回から参加させていただいて、議論を聞けば聞くほどもぐらたたきゲームみたいな感じで。前回の時にも意見として申し上げたのですが、地域で空で空気を運んでいるという話もありましたが、現象としてそんなビジュアルの様に見えて実際のところ収支がどういう風になって、どれくらい税金が使われているのかというところを、詳細まで周知されている市民の方ってそんなに多くないですよ。ちゃんとディスクローズして地域を上げてどう

やってこのコミュニティバスの維持をしていくのか。行政的に言うと片方でゼロカーボンシティみたいな取組もあるんですよ。ですから、余り自家用車で買い物に行ったり云々というのではなく、できるだけ手控えるような行政体というのも一つのコンセプトであるわけで、そうすると今の現状、色々手を子招いてはいけません。月に何回かは若い方が、コミュニティバスを利用するということで共助とするみたいに、片方であってもいいのではないかと。利便性が増すから利用するかというと必ずしもそこにはいたらないという風に僕なんかは思っていて、やればやるほど要求が出て来て聞けば聞くほど予算が要って。この鼯ごっこになるので、一部財源を担うということにおいても、ただ寄付をくださいということではなく、1回でも2回でも乗って200円の乗車料をコミュニティバスに落としてくださいというような、市民に対する投げかけというのをあってもいいのではないかと思っています。変更しながらそのような取組みも組入れていくのもいいのではないかなと思います。これも前回からも申し上げていますが、人を運ぶだけの概念ではなくて、同じように予約をするのであれば、マルナカさんに買い物をするメニューを予約しておけば、夕飯までに近隣のバス停まで物が運ばれてくる。そういう乗客を運ぶバスではなくて、冷凍冷蔵を完備したようなものが部分的に巡回をするという事において対価をいただくというような概念というのも一部取り入れてもいいのではないかと。山間部において、いかようにもならない方をどうするか、これはこれで対応しないといけませんのですが、利便性を求める中でどうしても限界があるような気がしてならないです。そういう意味ではデマンドという試みは、やってどのくらいお客さんが伴うかというのは、一回実証というのは非常に大事であると思うのですが、大きく切り口を変えということも大事な視点ではないかという気はしています。今後の議論なんかで取組んでみてもいいのではないかと思っています。

会 長：貴重なご指摘ありがとうございます。事務局から何かありますか。

事務局：ありがとうございます。正に公共交通の出前講座とかにお邪魔させていただいて、公共交通のコミュニティバス何人乗っていると思いますか？とクイズを出すと5000人と言われる方、結構いらっしゃるんですよ。いや、7万1000人と言ったらドカーンとびっくりするんですよ。私たちも周知が足りないのかなと思ってはいるのですが、できる限りのことはしていこうか

なと思っています。それと後、今回の見直しの中で、市営の公共交通が担うべきものは一体本当に何なのかというところを、もう一回探ろうかなと思っています。本当に乗れなくなったらコミュニティバスをもっと便利に安くすぐに来て欲しいという、そのニーズに応えるものではないよ、というところを色々な考え方で、セットで生活していくためにはこういう生活があるよとか、そういうところも踏まえながら説明していく時期に来ているのかな、という風に来ているのかなと思う時もございます。これは尾崎委員さんのご指摘通り、便利にしたら乗るといってもいいし、乗らないとダメなところもあると思うので、もう一回そのことも考えながらコミュニティバスの今後の在り方、デマンド交通の実証実験を踏まえて考えていきたいなと思っています。それともう一つ今回の実証実験で大事にしたいことは、将来乗るといふ方々の意見を余り重視しない、という風に考えています。将来的にコミュニティバスとかデマンドがあったらいいね。田面地区でもすごく言われたのですが、実際は乗らない。乗るのは10年後、15年後という話。だったら今、本当に困っている方々というのに焦点を合わせて、路線とかを考えていきたいし、デマンドの乗る場所ピックアップの場所というのでも検討して行きたいと考えているところです。

尾崎委員：東京を中心に関東圏というのは放射線状に列車とか道があるんですね。放射線状にあって、それを横に繋ぐ路線というのは余り無いんですよ。実は都市部は、住む方が利便性のいいところに住みます。利便性のいいところに住んでない人は、土地の対価が安いので文句言わないんですよ。ですから、地方でどこに住んでいても同じサービスを提供しないといけないというところに、結構矛盾が出るんですね。これは別に切り捨てろという意味ではなくて、日本全国見ても都市部が必ずしも利便性があるわけではなく、都市計画という部分もあるので、要するにコンパクトシティ的に居住エリアをどうするかという問題も、実は将来構造の中では考えていかないと。パーと分散しているという事に対しては、利便性というのは中々理屈上で難しい訳ですよ。公共交通だけではなくて、行政、市の方では色んなプロジェクトがある訳で、是非連携しながらどんな風に利便性を高めるかというのは、議論していただくべくテーマではないのかなと思います。

会長：正にご指摘の通りで、地方としてもよくある話で例えば、アンケートなどでスーパーに近いところに住んでいる人と、遠いところに住んでいる人で全然スーパーに行く頻度が違うんですよ。近いところに住んでいる人は、昼ご飯何にしようって、スーパーに買いに来て、夕飯の時も夕飯の準備で買いに行くんですね。遠い人は1週間に1回買いだめに行くぐらいしか行ってない。距離と比例するので、そういう意味では同じサービスを提供する、同じ機会を与える、こういう事をしたいと実現できる地域を作っていく、そういう感じたと思います。だからスーパーに近いからと1日に2回も3回もスーパーに買い物に行くかという希望はないはずなので、その辺を上手に聞きながらやっていけば良いかなと思います。後、尾崎委員がおっしゃっていたように、収支とか出した方が良いのではないかはおっしゃる通りで、あるバス会社とかは、このバスはこれだけの赤字ですよと公表して動いていて周知している。これをさぬき市で出した時に、これだったら廃止した方が良いでしょうと声が大きくなると思った意見も出そうですが、ただ隠しているのは良くないので、出していく必要はあると思います。他の方のご意見もいただきたいのですが、いかがでしょうか。民生委員小倉さん、コメントなどございませんでしょうか。

小倉委員：私、大川町の南川という公共交通が発達していない高齢者が多い山間部に住んでおり、移動サービスを2年前から地域住民と話しており、今はどう進めるかということところです。先ほど尾崎さんもおっしゃっていましたが、非常に便利なんですけど、80歳を超えてきたら体力的にも困るので、みんなで移動することを考えようと思っているんですが、なかなか便利なのに慣れてるから、みんなで移動することは非常に難しいです。今お出かけ支援という形で、コロナ化もあったのでどうしても家にこもりがちなんですけど、みんなでどこか行きましょうというので、それを1年半ぐらい前から始めています。色々タクシーを利用したりコミバス利用したり、それから個人の自家用車を利用したりしてやっておりました。やる度に参加してくれる人が増えておりました、バーベキューをやったんですが、その時には30数人集まってくれました。段々地域の人たちに浸透してきておりました、移動サービスをするならここ1、2年が勝負だなと思っています。ただ、問題も沢山出てくると思います。車はどうしましょう、何を使いましょう、タクシー使いましょうか自家用車使いましょうか、市にお願いして車を借りましょうか、社会福祉法人に車を出してもらおうとか。そんなのを一つ一つやるんですけど、さぬき市ではこういう取組が非常に珍しくなかなか上手くいっておりません。交通会議を通じて、皆さんの意見を色々お聞きして何とか月に1回ぐらいから運行できるようにしたいところであります。

会 長：ありがとうございます。やっぱりお出掛けをするのが、1つの課題であると思うので今回、デマンドを入れようとしているところも、お出掛けが気楽にできるような形が取れば良いと思います。続いて、いきいきネット井上さんの方から何かお気づきの点などありますでしょうか。

井上委員：今年度から引継いで委員をさせていただいております。この会議において、オレンジタウンというところがございまして、そこでコミュニティバスについては色々と住民の方からの要望。志度の自治会としての会であったり、各地区からの要望を承っております。市の方へは、住民の意見としてなるべく回数を増やしていただく、それから乗合のバス等についての要望ばかりでございます。それについてこの会議で、市の方の色々な制約や事業のご苦勞も承りました。住民の意見ばかりでなく、私も勉強してこの会議に有益な方向でさぬき市のコミュニティバスの運行に努力しようと考えた次第でございます。今後とも色々な面でよろしく願いいたします。ご協力もさせていただきたいと思っております。

会 長：是非、これから住民の皆さんの生の声を届けていただけたらと思います。こちらから指名させていただいて恐縮ですが、元山さん今回コメントなどいかがでしょうか。

元山委員：市長さんの挨拶の時にお話がありましたけど、私も上勝町が個人的に物凄く興味がありまして、前々からそのような話もした事があるんですけど、あそこは有償でどうも運用しているらしいです。小さい町だからそれができると思うんですけど、さぬき市はやっぱり5町で範囲が余りに広すぎてなかなか上手いこといくところもあるし、いかないこともあるし、朝の便について、津田の方に行く便については凄く便利が良いらしいです。だけど、津田の診療所の病院が終わった時に帰りのバスの便が上手いこと乗継ができないらしいです。私も今車の運転ができますので、コミュニティバスに乗る機会は余りにも少な過ぎて、一度乗ってみたいと思うんですけど、先日もここで会議がありました時に市長に、今日の会の時にバスに乗って来た人おいでますか？と聞かれましたけども、誰もバスに乗って来た人はおいでなくて、私もその中の一人ですが、やっぱり市長のいう事も一理あるんです。やっぱり住民みんなが乗って見ないことには利便性というのも分からなくて、利便性や時間帯とかも頭の中で把握できていないです。やっぱり会のある時には、なるべくバスを利用しましょうということを、市長さんも声を大にして先月もおっしゃったんですけど、バタバタしているからバスに乗って来るところまでは発想が出来ないんですけど、私たちもなるべく協力できるように、一人でも多くの方がバスに乗ってみると。乗らなくては声も出せないと思うんです。本当に利用する機会が無

くて申し訳ないです。これから1回でも2回でもバスに乗って市役所へ来れるように努力したいと思いますので、皆さんもどうぞ1回でも2回でもバスに乗ってください。以上です。

会長：ありがとうございます。今回はバスの時間を書いていなかったですけど、これまでやっていた会には、この便に乗ったらいいですよとアナウンスがありましたね。なかなか難しい中でやっていると思いますが、この便で乗ってくると間に合うよってというのが一言あると乗られる方も居たりするので、そういう形で進めていただければと思います。それと誤解なき様にと思うのですが、さぬき市もそうですけど、色々和生活をして、この会議に来られてる方って他の委員も兼任されてたり物凄く忙しいと思います。その方々が自動車を止めて公共交通だけでとなると、多分すべての会議に出席できなくなる。車を使うことが駄目よというのではなく、香川県で住んで色々活動するためには、車が多分ベストだと思うんですけど、今日は車を置いて出掛けようか、という事ができるかどうかだと思いますので、車を使う事が悪いというのではなくて、10回外出する中で1回は公共交通使ってみようかって感覚で大丈夫だと思いますので、乗るために乗っていると雰囲気は違うんですが、何かの会、あるいは出掛ける時にちょっと時刻表見てみようかとか、見た時に分からないことは多々あると思います。さぬき市のコミュニティバス色んな路線がありますので、どれを見ればいいんだと多分分かりにくいと思います。その辺を実感していただいて、また事務局あるいはこの場でご意見ご披露いただけると非常にいいものが出来てくると思うので、またよろしく願いします。その他ご意見ございますでしょうか。末次さん、どうでしょうか。

末次委員：ご縁があって今回から参加させていただいているんですけども、私は何の専門家と言う訳ではなく、市民の一人としてご意見を申し上げさせていただく形にはなるんですけども、元山委員がおっしゃられていたように、コミュニティバスに私も正直乗ったことがないです。自分が運転まだできますし、子育てをしながら急ぐ時には、直ぐ行かないといけない状況の中で、コミュニティバスとか公共交通を使うこと自体が間に合わないというのが正直なところですが、ただ、過去にこの公共交通の取組の中で妊婦の補助券とかは、丁度私の出産時期に重なった時に補助をいただいて、本当に子どもの調子が悪い時は子供は抱っこして欲しいので、車で一人で乗せて行くということがこれまでお母さん方はとても困っていたと思います。その中で、緊急事態でその時、三協タクシーさんに来ていただいたんですけど、タクシーに来ていただいて、抱えて連れて行けた。そして終わったら迎えに来ていただけた、というのはとても有難かったなとこの場をお借りしてお礼を申し上げたいと思

いますし、今年度も続いていて良かったなと思っています。子育てをする立場から言うと、コミュニティバスは高齢者で、普段の生活に困っている、公共交通がないと困る方が対象の乗り物だなというイメージがありますし、実際それがないと困る方が困らなくては本末転倒だとは思うんですけども、やはり将来的なことを考えると、さぬき市も少子高齢化で子供が減ってくる中で、子供たちが定住をし続けてくれるとか、子育て世代が定住したいと思える市になって欲しいなと、さぬき市出身者としては思う訳です。会社をさせていただいている中で、従業員のパートの方とか、私自身もですけど子供の送り迎え、塾の送り迎えのためにわざわざ仕事を早く切り上げて働けない女性の方が非常に多いなと思っています。それは生活の買い物に行けないという方に比べたら、他愛もない欲張りな要求になるかもしれませんが、魅力ある地域というのを考えると都会ではタクシーに乗合して3、4人が塾や習い事に行くとかされてますけど、まだこの地域ではそういう取組はないですし、若い世代もコミュニティバスに乗るという機会を作るためには、そういう活用の仕方とか詳しくはないのですが、若い世代の人に入ってくる情報とかは、琴平町さんが取組まれているmob i（モビ）だったりというのは、デマンド交通の一つだと思うので、非常に待ち時間は長いのでしょうし、土地柄の違いで、市・町の大きさが全く違うのでさぬき市にそのまま取入れられるとは思わないんですけど、若い世代の人達の公共交通の認知度というところでは、SNSを活用したり非常に分かりやすいというか、印象的な取組みだったので、そういうものも長期的には、今困っている人を助けるというのが優先だとは勿論思うんですけど、いつか検討していただける余地があればうれしいなと思っています。

会 長：貴重なご意見、沢山ありがとうございます。決して子育て世代の方が実は困っていないとは思ってはいなくて、今送り迎えが大変で、私も土日は送り迎えで何もできない感じですね。別の市・町になりますけれども、子供さんの送迎に着目して利用者を増やしていく送迎の手間が省けるということがありますので、誰が困っているのかその人達に直接話を聞いてどういうのがあったら便利というのを聞きながらやるとまた話は変わりますが、そういったことを地道にやれば良いと思います。デマンド交通で香川県内でもmob iと言ったものとか色々あるのですが、それぞれが良いとか悪いとか言う訳ではなくて、その地域にあったものを選ぶ。さぬき市もエリアが広いですから、田面地区でやったというのもありますけれども、また志度地区で全然違うかも知れませんが、住んでいる方々や地域の方々など地域の特性を見ながら良いものを選んで行けばいいのかなと思います。

佐々木委員：色々な委員さんの話の中で、元山委員が上勝町とか。実証実験で行うデマンド交通については、三豊市詫間高専の学生さんの話があったんですが、デマンド交通一つにしても、要は予約配信システムがどんなものかになると思いますが、細かいところの紹介はなかなかニュースだけではできません。今の会長さんの発言だけでもうちがこうなっているかよく分からない部分。そこで事務局にお願いしたいのは、もう数年先には4万人ぐらいの香川県さぬき市の人口、今が4万5千5百ぐらいで、交通計画1年半前倒して人口どんどん減っています。大学も無くなります。高校が造田・神前地区に2校集約されてしまう市になってしまう。そういうのを想定して、交通体系が成功している所の紹介を是非、具体的にお願したい。その為には研究者は出向いて張り付いて学んでするんですが、もう今コロナがなくなって出張も解禁されましたので、2、3日張り付くつもりでいていただいて、細かいデメリットも含めて紹介してくれたら、さぬき市の交通会議の将来像も具体的に見えてくるのではないかと感じはしています。尾崎委員が言った、例えば一人一回は年間に乗ってくださいというのが、色々なアイデアで可能になってる所があるかも分かりません。色々な委員さん発言の中に出てきたことを、研究できるところを探していただければと思っております。

会長：事例とか、成功事例とか何をもって成功かは結構難しいものでして、他地域で成功していてもさぬき市で上手くいくかという決してそうではないので、田面地区の去年はデマンドの実験もやって来てましたけど、あそこはあそこの事情があるし、今回は志度地区で行うので、住民の方々に話を聞きながらやっていくのが一番手っ取り早い事だと思います。誰がどう困っているかというと、ついつい高齢者の方に目が行ってしまうのですが、多分気になっているところが子育て世代、親御さんでなく今の子供たちで、今の子供たちって一人で公共交通ほぼ乗れないんです。どうしてかということ、大体親御さんや、おじいちゃんおばあちゃんが送り迎えしているので乗らないんですね。では乗らない人をいつ乗せるんだっていうところで、どういう風に公共交通を利用してもらうのが大きな問題でして、高校生くらいになると結構行動範囲が広がるので、通常は自転車なんだろうけど、雨が降ったりちょっとした時に公共交通を使えるなっていう地域を作っていくと、多分さぬき市の子供たちは大人になっても公共交通が使えないようなことになりかねないかなと思っています。何に困っていて、ではどうすればいいんだということを考えていくのが一番手っ取り早い様な気がしています。私の方からも事務局にご紹介したりとかしますし、さぬき市の中で色々悩んでいる方も多いので、ご紹介しますので事務局引続き情報共有していただければ大丈夫だと思います。また皆さまも個人的な興味で色々な地域を見に行ってみるといいと思います。ただ正直、さぬ

き市のコミュニティバスの事について傍から見るとよく分からないと思います。おいおいとやっていくので良いと思います。一旦ここで打ち切らせていただきまして、また気づいたよという事などあれば、事務局の方にご意見ください。では次の議事に移りたいと思います。

(4) 今後のスケジュールについて

会 長：それでは、議題4「今後のスケジュールについて」、事務局の方をお願いします。

事務局：(説明)資料2(P15)になります。スケジュールグラフの通りとなります。

先ほどの意見について、市としての考えを一言だけ言わせていただこうと思います。行きはコミュニティバス帰りが無いと言う意見よく聞きます。今回ダイヤを組んだ時に均一にしたのは公共交通網としてさぬき市のコミュニティバスを組み込んでいくというイメージがありました。行きはコミュニティバス、そこからJRに乗って行って、帰りはタクシーとかそういう風な選択っていうのを考えていただこうとは思ってはいましたが、余りにも抵抗が大きいというのが一つありましたので、ここもまたこれから考えていかないといけないなとそういう意味では回すという考えもあるのかなという風に思っている所です。後、他の自治体の参考、玉野市さんの方でしている話であったり、我々もここ何年間も皆さんの自治体の良いところ、これはさぬき市でも使えるのではないかな、これはどうかというのを寄せ集めてきて今後作ろうと、そこに専門家の方がしっかり付いてくれていますので、色々な自治体の良いところをさぬき市の中で取り入れられるものは取り入れていって、実験していくというような取組を続けて行きたいなと思っております。それと、デマンドは今回入れるところですけど、実は高齢者の買い物とかあるんですけども、長期休暇に入った子供たちが少し遊びに行くのに使ってもらえたらうれしいなというような思いは個人的にはあります。そういう意味では定時定路線ではなくて、デマンドという機動性の良さっていうのを使えると思っています。そして運行は地元のタクシー事業所ですので、そこは絶対安心。だから保護者の皆さまがちょっとデマンドで、その公園行って来たらみたいなのができたら最高かなという風に思っています。これがどんどん広がっていってもう少し違う形、塾とかにも行けるようになったらいいですが、そうなるが遅くならないといけなくなってきますので、そこがまた色々な兼ね合いかなという風に思っています。公共交通生き物だと思っていますので、皆さんと一緒に育てられたと考えておりますので、どうぞ協力よろしく願いいたします。そういう訳で、今年の冬から実証実験の方を始めて、皆さまにこんな感じでそんなに悪くなかったような実験だったという風に報告できれば

など考えています。田面でやって正直余り良くなかったので、もうやらないという選択もあるんですけども、さぬき市としては、色々な地域で色々な実験をして広めて行けたらなと考えておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

会 長：ありがとうございます。スケジュールの方合わせてお願いします。

事務局：スケジュールの方は、見ていただいて省略させていただきました。調整の方をこれからずっと冬までするようになります。住民への周知が8月ぐらいからスタートをしていくのですが、この時には井上委員さんとか小倉委員さんとか元山委員さんとか白山委員さんとか周知の事とか色々相談をしながら進めさせていただきたいと考えておりますけど、構いませんか。ありがとうございます。それで、21条許可の方が四国運輸局に必要なので、大体2カ月ぐらい考えて置いたらと言われておりますので、10月頃ぐらいには申請の方をして12月から実証実験ができればという風に考えております。申請前には皆さま方にお諮りをします。もっと細かいことをお諮りして皆さまからGOが出たら申請ということになりますので、9月の下旬頃を目標として、第2回目の地域公共交通会議を開催させていただこうと思っております。実証実験の終わりの辺になりましたらこちらの表としても取りまとめをしまして、3月には皆さまともう一回今回の実験を総括するというような形で来年度に向けて取組を考えていこうと思っております。もうザクっとしておりますが以上です。

会 長：12月からやるということで、感覚的にはかなり時間が無いという風に思うのですが、多分予算の関係等でこのスケジュールになったのだらうと思っておりますので、取り敢えずやってみて今後データが取ればという風に思いますから、皆さま方も忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。これで、一旦議事は終わりました。本日は皆さまご意見をいただきましてありがとうございました。それでは、事務局の方に移します。

5 事務連絡

事務局：事務局からはございませんので、これで散会とさせていただこうと思っております。今日はざっと早口で説明しましたので、何かご不明な点ありましたら、事務局の方までまたご連絡いただければと思っております。今日はどうもありがとうございました。

6 閉会